

「スパイ防止法」断固反対！ 12月、東京で2つの集会開く

高市政権の下で「スパイ防止法」策動が急速に進んでいる。「2013 年の特定秘密保護法の制定以来、市民の情報を国家が収集管理する、国家の秘密を拡大し、その漏洩に懲罰を科す仕組みの整備が進んでいる。この戦争体制のための国づくりの総仕上げがスパイ防止法だ」（海渡雄一弁護士）。国民民主党、参政党はすでに「スパイ防止法」を国会に提出した。野党が国民弾圧法案を競って提案するという異常事態だ。危機感を抱いた市民団体が、12 月 2 つの集会を開いた。「スパイ防止法」断固反対！だ。

>>>> 12.7 第 85 回憲法を考える映画の会 <<<<

第85回 憲法を考える映画の会

レーン・宮沢事件

もうひとつの12月8日

2025年 12月7日(日)
13時30分～16時30分
文京区民センター 3A会議室
(地下鉄 春日駅 2分・後楽園駅 5分)

■プログラム
13:30～13:40 この映画について
13:40～14:40 映画『レーン・宮沢事件』(52分)
15:00～16:30 トークショー
(映像上映後、映画の内容に詳しい人のお話を聴いていただきます)

■参加費: 1000円 (税別・送料)
学生、高齢者などは行っておりません。
参加費は、会場でお支払い下さい。

旅行好きの日本青年と
米国人教師との
人間的交友がスパイ化
された。そして
彼らのすべてが
打ち砕かれた

いま初めて映像化される
「国家秘密体制の爪痕」

もうひとつの12月8日

レーン・宮沢事件



2013 年 4 月から月 1 回、憲法についての映画を上映して、映画の後、話し合う機会をもつ会を行ってきた『憲法を考える映画の会』は、左記の「レーン・宮沢事件—もう一つの 12 月 8 日」を上映する映画会を開催した。同会はこの映画上映にあたって以下のように訴えた。

> この映画を見て考えたいこと <

「スパイ防止法」制定の話が、7 月の参議院議員選挙以降、にわかに持ち上がり、与野党の多くが、この法律の成立に同調しようとしています。

この法律は、特定秘密保護法、安保法制、共謀罪法、重要土地規制法、経済安保法などと共に、戦争を行うための都合にあわせた法律です。戦前の「軍機保護法」と同じ目的、内容（危険）をもっています。市民活動を分断、萎縮させ、人権を窒息させ、民主主義を壊し、戦争への道を開くものになります。

そこで、この「スパイ防止法」が、戦争の準備のためのものであり、いかに言論、表現の自由を弾圧する危険な法律であるかを考えていくために「軍機保護法」によって命を落とした青年を描いたドキュメンタリー映画「レーン・宮沢事件」を見ていきたいと思います。

外向けにも、また内向けにも、着々と進められている戦争の準備とこの国自らが戦争を起こそうとしている危険・危機について考えていきたいと思います。



文京区民センターの会場には 150 人が参加した

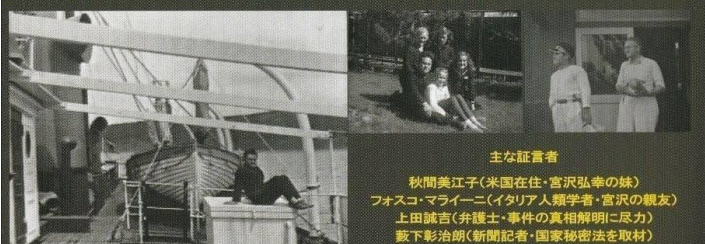
>>> 12.16 第3回スパイ防止法を考える勉強会<<<



太平洋戦争開戦の日、スパイとされた大学生と米国人教師の悲劇。

2013年12月に成立した、秘密保護法案。公布から1年以内に施行されることが決定した。法案は「機密情報を漏えいたした者への罰則を強化するため」と政府は説明しているが、国会での議論と市民への説明が十分に尽くされたとは言えない。

秘密保護法とソックリな戦前の悪法・軍機保護法施行下で起こった「レーン・宮沢事件」を追ったただひとつの幻の作品が緊急DVD化！日本国内だけでなくアメリカ・イタリアへロケ敢行。知られざる日本の歴史的事件を掘り起こした問題作。安倍改憲・秘密保護法復活のいまこそ必見！



【レーン・宮沢事件とは】太平洋戦争開戦日の1941年(昭和16年)12月8日、北海道大学工学部2年の宮沢弘幸さんと、北海道大学予科の英語教師ハロルド・レーンさん、妻のポーリンさんの3人が軍機保護法違反などの疑いで逮捕され、それぞれ懲役12年から15年の刑を受けた事件。旅行中に見かけた根室の海軍飛行場について、宮沢さんがレーン夫妻に直接話したことが、軍事機密の漏洩とされた。当時、リンドバーグ大佐の飛来などで海軍飛行場の存在は周知の事実であった。宮沢さんは1945年10月に釈放されたが、獄中で結核を患い、1年4ヶ月後に死亡した。

【秋間美江子さん(宮沢弘幸の妹)の証言】いろいろな拷問があったそうです。立ち上がって両足をついて両手もつく。それをカニと言ったそうです。とっても苦しいかっこうなんです。それで、1時間でも2時間でも立っているそうです。「だからボクは一生カニなんか食べないんだよ。だってお兄ちゃんがカニになっちゃたんだもん」。次兄が言ったその言葉は今でも耳に残っています。

個人用価格 3000円(税別) 団体・上映用価格 9000円(税別) 企画制作 ビデオプレス
173-0036 東京都板橋区向原2-22-17-108 TEL03-3530-8588 FAX03-3530-8578 <http://ypress.la.coocan.jp/>



無承認上映及びレンタル不可

12月16日、参議院議員会館講堂で正午から『第3回スパイ防止法を考える市民と超党派の議員の勉強会』が開催され、市民120人が参加した。ラサール石井、有田芳生、平岡秀夫、上村英明、塩川鉄也さんら国会議員が駆け付け、「スパイ防止法」の危険性と成立阻止を訴えた。

開会冒頭、実行委員の菱山南帆子さんは「官邸前集会には多くの市民が集まっている一方、SNS上では、明日にも戦争が始まるようなデマ宣伝が酷い。これまでにない事態だ」と危機感を訴えた。

続いて1993年制作のドキュメンタリー映画『レーン・宮沢事件—もう一つの12月8日』を上映。12年前の秘密保護法反対闘争時にも見たが、何回見ても国家権力の弾圧の残酷さと、それと闘った人々の記録は説得力がある。制作者のビデオプレス・松原明さんは再版したDVDを販売して訴えた。

この映画について「解説」を要請されたので、「スパイ防止法を許すな！ 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件を繰り返させてはならない」と題した「事務局たより」号外を配布して10分ほど訴えた(久しぶりに大勢の前での発言だったのでどこまで伝わったかは?)

最後に海渡雄一弁護士が、詳細な資料をもとに、国民民主党と参政党が「スパイ防止法」を国会に提案した今、「スパイ防止法に反対する運動を緊急に構築しよう！」と呼びかけた。(福島 清)

事務局たより 号外 2025年12月1日 <http://miyazawa-lane.com/index.html>

「スパイ防止法」を許すな！

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を繰り返させてはならない

北大生・宮沢弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会・事務局

1) 1941年12月8日、対米開戦と同時に国内一斉抑圧を開始

1941年12月8日は、太平洋戦争に於ける日米開戦の日。同時に、国内にあっては外諜防止・治安維持の名の下で、国家による過酷で徹底した人権抑圧が極限へと向かった日となる。